

学校法人大丸クリエイターズアカデミー

ディースファッション専門学校

平成 28 年度

教育課程編成委員会 報告書

教育課程編成委員会

平成 28 年 10 月 12 日

目次

1. 報告書骨子	2
2. 平成28年度第1回教育課程編成委員会での論議内容	3
a. 教育課程編成委員によるディースファッション専門学校の教育課程の編成への提言	
b. 教育課程編成委員によるディースファッション専門学校の教育課程編成への総評	
3. 平成 28 年度第2回教育課程編成委員会での論議内容	5
a. 教育課程編成委員によるディースファッション専門学校の教育課程の編成への提言	
b. 教育課程編成委員によるディースファッション専門学校の教育課程編成への総評	
4. 学校関係者評価を受けて	6
(補) 教育課程編成委員会開催日程	

1. 報告書骨子

教育課程編成委員会(以下、当委員会)は、デーズファッション専門学校の「学則」及び、「学則を遂行・運用するための細則」(以下、細則)に基づき、平成27年4月1日に設置した。デーズファッション専門学校(以下、本校)が行う教育内容について 学外の関係者から 社会通念に照らし合わせて、又、専門的な知見の観点から助言を得るため、外部評価を実施する期間として当委員会を設置した。

当委員会は本校の教職員で構成される「校内教育課程編成委員会」で論議・検討した現行の各学科の教育課程の実施内容の反省を資料とし、本校教職員と意見交換を行った上で、今後の各学科における教育活動・教育課程(カリキュラム)について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。

当委員会は外部委員7名と本校関係者2名で構成されている。外部委員は本校の教育理念を理解し、実業、人材育成に精通した学外の関係者から、本校理事長が選考し、委嘱している。委嘱した委員は下記のとおりである。

平成28年4月に平成27年度の各学科の「教育課程 実施内容の振り返り」を資料として、平成28年度第1回教育課程編成委員会を開催し、評価・助言を取りまとめた。その後半年を経過した中で平成28年10月に第2回教育課程編成委員会を開催し、現状の教育活動について教育課程を中心に、意見・示唆を頂いた。本報告書は委員会の内容を基に作成した。本報告書に記載した評価・助言はより本校の発展に資するという考え方に則り、過度に要約することなく記載している。

記

委員長	大橋治子	学校法人大丸クリエイターズアカデミー 学校法人デーズファッション専門学校 校長 及び 本校卒業生
委員	中島一博	(株)ヤマトマネキン代表取締役会長
	葛西順子	(株)ワコール 人事総務本部 ダイバーシティ・キャリア支援室 執行役員室長 及び 本校卒業生
	荒川徹	(株)京都紋付 代表取締役社長
	岩崎靖璋	(株)イワサキ 代表取締役会長
	糸井弘一	協同組合 関西ファッション連合 戦略室特命担当
	酒井明	京都府立朱雀高校 校長
	古川あかり	本校生徒 父兄
	公江辰朗	学校法人大丸クリエイターズアカデミー デーズファッション専門学校 理事長

2. 平成28年度第1回教育課程編成委員会での論議内容

a. 教育課程編成委員によるディーズファッション専門学校の教育課程の編成への提言

1) 平成 29 年度から統合・再編する新学科の編成について

- ・ 前 2 回の教育課程編成委員会でも論議を頂き、ファッションデザイン科とファッションプロダクション科の教授内容の近似性の問題。一方で基礎力の重要さといった観点から 修学年限の 3 年化の提言を頂いていた。これをきっかけに 校内で検討を進め、平成 29 年度入学の学生から 現状の学科の統合・再編を行い 3 年コースを「ものづくり系」、「ビジネス系」それぞれに導入する。
- ・ 第 3 回学校関係者評価委員会でも述べたように 各学科、各コースごとの就職先を想定してそれを学生と共有し、学生に卒業後学んだ知識・技能が 社会でどう生かせるのかをイメージさせることが必要。同じような出口に行くのに 2 年を 3 年にしても意味がない。
- ・ 在学中の娘は当初、専攻科に進学することを迷っていた。ただ、デザイナーへの夢があり、専門性を高めるため、専攻科に行くことに決めた。
- ・ 専門性については 京都には多くの染色企業がある。学生の中に現場を見ておくのは良い。デザイナーでも染色過程は不可欠な知識である。染色を知ることによってデザインの幅やイメージーションが膨らむ。京都の立地を生かすべき。
- ・ 高校生ではなかなか「テキスタイル」はイメージがつかみにくいかもしれない。
- ・ 学校でごく基礎的な事を学び、その上で企業で技術を磨く方法もある。2年で卒業できるコースを設けたのは良い。
- ・ 進路を意識して 入学後もその後の知識の深まり次第で考えれば良い。今回の学科の統合・再編では1年次の終わりにコースの再選択を行う機会があるのは良い事だ。

2) カリキュラムと企業連携について。

- ・ 前2回の教育課程編成委員会において、カリキュラム内容において企業連携授業の強化を勧められた。これを受け平成27年度については 年度途中から意識して企業連携を授業の中に取り込んできた。ただ、企業との連携では企業と学校の時間軸の差がある。学生の知識・技能レベルを引き上げるのに 時間がかかり、期中にいただいた魅力的なご提案にもフレキシブルに対応できておらず、困難を感じることもある。

- ・ 染工場を営んでいるものと言えるのは 企業側ができる事を考え、いろいろ提案してもらえれば 面白いことが出来るだろう。
 - ・ 知識がないところは企業も教育する。そういうスタンスで取り組みばよい。

 - ・ 染色はデザインを志すものにとって不可欠な知識で 染工場でのプロからの指導によって学生の興味が増すであろう。

 - ・ 前回は提案したが、私の営んでいる会社で縫製関連の合宿形式のインターンシップを受け入れることが出来る。 検討してください。
- b. 教育課程編成委員によるディースファッション専門学校の教育課程編成への総評
- ・ ディーズファッション専門学校における各学科の教育課程については本校の教育方針の元、各学科において学科の教育方針を立て、それに従った形で概ね運営されている。

 - ・ 以前問題としたファッションデザイン科とファッションプロダクション科とのカリキュラムに差異がつけにくい事について、平成 29 年度から行う学科の統合・再編は意味がある。

 - ・ その中で、学生の就職等を考えると、卒業後の就職先を意識したキャリアートの考え方を学生と共有できる内容のカリキュラムにする必要がある。

3. 平成 28 年度第2回教育課程編成委員会での論議内容

a. 教育課程編成委員によるデイズファッション専門学校の教育課程の編成への提言

1) 平成 29 年度から始まる新学科・コース編成について

- ・ 本年度第 1 回委員会での意見・示唆を受けて 将来のキャリアイメージにつながる事を意識したものになっている。
- ・ 学校の特色が見えにくくなっているのではないかと。以前の「ドレメさん」という様な 特徴を出してほしい。
- ・ デイズの就職活動で来る学生たちの質は他校に引けを取らない。一方で 学校で教えられることでは特出した技術は無理である。縫製企業を運営している立場からいうと 就業して 社内で教育・訓練していくことで一流の技術者になる。現場は 2 極化している。安価な服と高級商品に分かれる。我々は高級にシフトしており、技術に特化している。少々変人と言われるような人も 高い技術を身につければ生き残れる。
- ・ ジャパンクオリティと言われるが 実際にそれをつくる資産が企業になくなっているのが現状である。先ほどの学校の特徴部分でいうと 高い技術というのも「学校の特色」としてとらえられるのではないかと。
- ・ 学校関係者評価委員会でも伝えたが、専門関連の資格以外の 又はもう少し高度な資格の取得の道をつくってもいいのではないかと。(TES やカラーコーディネーター資格等)
- ・ 現在通っている子供も 1 年、2 年の時は細かいところまで指示があり、少し退屈そうであったが 3 年生(専攻科)になってから自分が思うように出来るようになった。これも基礎が出来た上のことだと思う。

2) カリキュラムと企業連携について

- ・ 遠方から来る学生がなぜいるのかを考えると やはり「京都ブランド」が大きい。「京都」をうまく使うべきだ。報告の中に地元金融機関の紹介で京都の企業との連携を模索しているとの事だが、京都の伝統産業との連携で ファッション専門学校が何が出来るかわからないが こういうところに目をつけていくのは大事なことだと思う。又、産業自体も後継者の問題を持っているのならば うまく連携が出来れば 双方によって良い。教育の世界で貢献できるのではないかと。

b. 教育課程編成委員によるデイズファッション専門学校の教育課程編成への総評

- ・ 以前論議した「ファッションデザイン科」と「ファッションプロダクション科」の近似性についての 解決策として提示された学科の統合・再編は キャリアパスを意識したものとなっている。
- ・ 企業連携についても 企業との WIN - WIN 関係の構築がないと長続きしない。又、「京都」を切り口にしたものの方が好い。

4. 教育課程編成委員会の諮問を受けて

今年度 2 回の教育課程編成委員会において、各委員から真摯で前向きなご論議をいただきました。心より御礼申し上げます。当校の教育課程について 外部委員を迎え、現状の学科、及び次年度からの教育活動・教育課程につき、ご意見・ご示唆をいただきました。

前年度の委員会でのご意見・ご示唆を受けて 平成 28 年度についても 外部企業との連携をより多く持つようするなど、カリキュラム内容の向上に努めております。又、いよいよ来年度から学科の統合・再編を行い、就学期間の 3 年化(一部、2 年制あり)に移行してまいります。

学科の統合・再編をすることで しっかりした基礎の上に専門性を持った学びを提供できる学科構成は実現したかと思えます。今後、計画したものを実際に運営する中で 各種の問題や課題が出てくるものと思えます。教育課程編成委員会で逐次報告しながら、改善に向けて 本委員会でさらにご論議いただき、ご意見・ご示唆を頂き、より良きものにして参りたいと思えます。

委員各位からは本校の教育課程については引き続き一定の評価を頂けたと思えますが、時代が大きく変わる中、特にアパレル産業の元気がないといわれる中、学生たちのキャリアートを意識した教育課程を提供するにはまだまだ不十分との認識をしています。委員各位様からご指摘・ご示唆をいただいたことにつきまして 真摯に受け止め、教職員一丸となって課題の解決に努めて参ります。

今後とも教育課程編成委員会を継続してまいりますので、皆様方のご協力を賜りたくお願い申し上げます。改めて、委員各位様に深く感謝申し上げます。

(補) 教育課程編成委員会開催日程

第 3 回

日時: 平成 28 年 4 月 20 日(水)

場所: ディーズファッション専門学校 西館 1 階 ギャラリー

出席者:

委員 大橋治子、葛西順子、岩崎靖璋、荒川徹、古川あかり、公江辰朗

(中島、糸井、酒井各委員は所要で欠席)

事務局 富永 泰彰、中居 莊子

第 4 回

日時: 平成 28 年 10 月 5 日(水)

場所: ディーズファッション専門学校 西館 1 階 ギャラリー

出席者:

委員 大橋治子、葛西順子、酒井明、岩崎靖璋、荒川徹、

古川あかり、公江辰朗 (中島、糸井各委員は所要で欠席)

事務局 富永泰彰、中居莊子